令和５年度第４回神奈川県公立大学法人

神奈川県立保健福祉大学評価委員会 議事録

議題　第二期中期計画（素案）について

　　　大学から資料１～３について説明した。

【質疑応答】

○宮川委員

まず、資料１の２ページ目の評価指標で、国家試験合格率のうち社会福祉士が75％になっている。他の国家試験合格率は全て100％になっているが、満足度は別として、何故、社会福祉士は75％なのか。

本来、目標は、100％を目指すというのが、一般的だと思う。

私は、第一期の際は、まだ、評価委員として審議に加わってはいないが、当然、評価指標は、第一期もあったと思う。過去の実績としてどの程度、目標を達成しているのかによっても、評価指標は変わってくると思う。

例えば、看護師についてはこれまでも合格率100％で目標を達成しているということであれば、評価指標も100％で構わないし、合格率が90数％で、あと少しで100％に達するということであれば、目標としては、100％が妥当だろうと思う。

以上を踏まえ、提示いただいた評価指標の妥当性について、教えていただきたい。

○保健福祉大学

質問いただいた評価指標１－(4)については、基本的に第一期中期計画で定めた内容を踏襲しており、第一期中期計画と同じような数値を設定している。

社会福祉士の評価指標のみ低いという理由だが、評価指標100％を設定した他の国家試験については、全国平均の合格率が概ね８割以上であるのに対して、

社会福祉士に関しては、全国的な合格率が３割から４割程度であることを踏まえ、第一期中期計画と同様の趣旨で、今回の評価指標を設定している。

○宮川委員

貴学における国家試験合格率の最近の実績は何％か。

○保健福祉大学

令和４年度実績では、社会福祉士は72.7％で、目標未達であった。その他、作業療法士が95.2％、それ以外は100％であった。

○宮川委員

今の話だと、社会福祉士は72％なので、かなり目標に近い数値となっている。それを踏まえて、例えば、目標を80％にするということも考えられる。目標なので、実績を踏まえて、少し高く設定するというのも、一つの考えだと思う。

○保健福祉大学

基本的には、現時点では、令和４年度おいても達成していない目標なので引き続き75％を目指していく。もちろん、目標値以上を目指して、学科において、国家試験対策等の講座の実施に取り組んでいきたい。

○梅原委員長

これに関してはこれまで散々議論したが、引き続き、目標値75％ということである。

○宮川委員

資料１の５ページの項番６、「ひとの力を高める教育基盤づくり」ということだが、ここでいう人の力を高めるというのは、具体的に何を指しているのか。例えば、「優れた教員の確保に努める」といった記載があるが、人の力を高めるために、教育者のレベルを上げるというのは、当然、そうであるが、直接的にはあまり結びつかないような感覚なので、この点について何か説明があればお願いしたい。

○保健福祉大学

項番６の上に「（３）教育の実施体制の整備」という記載があり、項番６は、中期目標案で定められた項目に対応したものである。

中期計画は、中期目標を達成するための計画であり、中期目標で、教員の配置、ＦＤの実施、学生の学習意欲を高めるための教育環境の整備を定めているので、その定めに対応した計画を立てている。

「ひとの力を高める教育基盤づくり」については、本学で教育基盤をつくるために、何を目指しているかということであり、本学ではヒューマンサービスの実現を目指しているので、「ヒューマンサービス」を「ひとの力」として、ひとの力を高めるという表現をさせていただいている。

○鈴木委員

まず、事務的なところを確認させていただく。本日、中期計画素案を初見で拝見しているが、本日、ここで議論をして、これ以降、どういうステップを経て、どうなっていくのか確認させていただきたいと思う。

○事務局（神奈川県健康医療局）

今、鈴木委員から、質問いただいた件について、事務局から、簡単に説明をさせていただく。

今回、県が定める予定である議案「中期目標案」に即したかたちで、「中期計画素案」が大学から提示され、今回の評価委員会において、評価委員から、様々な意見をいただいた内容を踏まえて、次回、１月10日に実施予定の第５回評価委員会の際に、「中期計画案」を提示させていただく予定である。

今回の評価委員会でいただいた様々な意見は、事務局としても庁内に持ち帰り、委員からいただいた意見内容をどのようなかたちで中期計画に反映させていくのかということについて、大学とも調整を図りながら、当局内でも議論を重ね、そうした議論を踏まえて、次回の評価委員会で、「中期計画案」というかたちでお示しさせていただくという流れになっている。

今年度は、あと１回、評価委員会があるので、引き続き、様々なご意見をいただけたらと思う。

○鈴木委員

今後の流れがよく理解できた。

その前提に立って、全体の印象としては、まず、評価指標については定性的な表現があるいう説明が大学からあったが、その部分が、やはり何となくぼやっとしており、何を評価するのか、それで本当に成果が出ているのかどうかという判断ができるのかということが、分かりづらい面があると感じている。

例えば、資料１の３ページの項番４の「専門人材のさらなる能力高度化とリスキリングを支えるフィールドの構築」の評価指標「時代の要請に適合した課程や研修の実施」という部分については、その実施した研修自体が、時代の要請に適合しているかどうかということを、どのように評価するのかというのが、課題としてあり、結局、何らかの研修を実施しても、その研修が時代の要請に適合しているかどうか、よく分からないと、評価のしようがないと感じている。ひとつ一つ、何をもって、成果とするのかという定義を、確認いただきたいと感じている。

もう一点、大学として、様々な積極的な挑戦をしてもらえると思うが、欲張れば欲張るほど、教職員への負荷が重くなるということがあり、大学としてマネージメントできているのかという部分も、きちんと測定していかなければならないと感じている。

その点については、民間企業でも、従業員のエンゲージメント等を行っているが、大学でも教職員サイドの、納得感、満足度、働きがい、働きやすさについても着目していく必要があると感じている。

○保健福祉大学

まず、ご質問の一つ目、評価について、大学としては、今回、中期目標案に定められた項目ごとに評価指標を設定するという法の要請に基づいて、先行する国立大学での事例を参考にしながら、検討させていただいた。そのうえで、評価指標は数値で定量的に把握できるものばかりではなく、ある程度、定性的な指標も設定している、あるいは、かなりの部分を定性的な指標として設定している国立大学もある。

本学も、数値で測れるものがあれば、できる限り、数値で測ろうと考えているが、段階的に事業の実現を図っていくような内容だと、なかなか数値では測れないものもあり、一部、定性的な指標を設定させていただいている。

評価にあたっては、本学では１次評価というものがあるが、評価の段階で、本学として、評価指標に関する実績について一定の整理を行い、大学としての評価を示したうえで、評価委員会の評価を受けて、それが適切であるか否か判定していただけないかと考えている。

ご質問の二つ目、全体のマネージメントについて、今回の中期計画素案には様々な新しい要素を盛り込んでいる。当然、大学も、（人、時間、予算等に）限りがある組織なので、一定のスクラップアンドビルドをしていく必要がある。ただ、やっていくものと、やらないものが明確に分かれるのではなく、時代とともに変わっていくような内容のものもある。

この部分を、どう受け止めて、大学として、新しい事業を実施していくかということについては、個別の項目ごとに、該当する（学内の）委員会、もしくは学科等で十分に議論を行って、整理をしていくものと考えている。

また、一方で、今回の中期計画素案に基づいて大学運営をしていく中で、純粋に、マンパワーとして、必要になってくるものもある。場合によっては、人件費の増等も考えられるので、必要に応じて、県とも調整のうえ、整理をしていきたいと考えている。

○鈴木委員

評価指標のうち定性的な部分について、定量化が難しいものもあるという部分は分かる。ただ、定性的な表現のうち、もやっとしている、主語、述語の順番が逆ではないのかと思われる部分がある。今後、学内で評価し、具体化するということだが、具体化したものを踏まえての評価指標でないと、あとで（評価の際に）矛盾が生じるのではないかという疑問があった。

○保健福祉大学

定性的な評価については、例えば、先ほどの「時代の要請に適合した課程や研修の実施」がある。

本学では、４年目及び６年目終了時に自己評価を行うことになっているので、それまでの実績を評価の際に提示させていただく。例えば、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃといった判定をし、その自己評価が適切であるか否かについては、評価委員会においてご判断いただく。これについては、これまでの手法と同様かと考えている。

○鈴木委員

従来のやり方を踏襲するのが必ずしもいいのかというと、時代の変化がこれだけ早いので、新しい方法を取り入れていただいた方がいいのだろうと思う。

また、ただいまの説明は、（評価委員会において）大学から、こういう努力をした、頑張ったということをご報告いただくというように聞こえる。

ただ、努力しても、成果に結びついていないと、意味のないという部分もあるわけなので、いかにその成果が出たのか、出ていないのか、ということを評価する指標を工夫していただきたいというのが私の意見の趣旨である。

ただいまの説明は、（評価のプロセスが）大学として実施した事実の報告になってしまうので、その成果が何なのかという部分を少し煮詰めていただきたいと思う。

また、いろいろ検討するという内容の評価指標もあるが、（この指標だと）検討チームを作って、一度、会議を開催しただけでも、評価できてしまうことになるので、その検討チームが何を達成したのかというところまで、ぜひ踏み込んだ評価指標にしていただければと感じている。

○鹿島副委員長

私の意見に対する答えはいただかなくて結構である。

これまで評価委員会ではいろんな指摘をさせていただいた。何度も言っているが、国立大学や他大学の事例はあくまで参考であり、「この大学はどうなのか」いうことを私たちは言っている。

例えば、先ほど質問があった、社会福祉士国家試験合格率の数値目標がなぜ75％かということは誰もが感じる疑問である。実績として合格率72％が達成されたことから鑑みると、今後、合格率100％を達成するポテンシャルを、この大学は持っていると考える。そうであるなら、何故目標を100％にしないのかと思う。100％に設定して、仮に実績50％であったなら、それはそれでいいのではないかと思う。100％を達成するために、具体的に大学として何をしたのか、（そのプロセスを）私たち評価委員は問いたいと考えている。

評価指標に異議を唱えるわけではないが、もったいない、何で挑戦しないのかというのが正直な考えである。他大学の事例がどうであるかではなく、この大学は国立大学とは違って、こうありたいという気概が全く感じないというのが私の気持ちである。繰り返しになるが、答えは結構である。

○山田委員

令和４年度の認証評価について、質問したい。

改善点については、大学として対応を検討されていると思っているが、その対応が今回の中期計画素案にどのように反映されているのかということが一点、また、この中期計画素案に与える影響はあるのか、コスト面からご説明いただければと思う。

○保健福祉大学

委員のご発言の中で、前回の指摘というのは、どういった内容か。

○山田委員

2022年度実施された認証評価である。2023年3月に評価センターから出ていると思う。

○保健福祉大学

評価センターの評価というのは、大学機関別認証評価のことか。

○山田委員

　2022年度実施された大学機関別認証評価である。

○保健福祉大学

認証評価に関しては、本学の３つのキャンパスがそれぞれ果たした役割を評価していただいたうえで、アドミッションポリシー等の記載の内容について、ご指摘をいただき、ご指摘に対しては本学として改善をしたところである。

なお、県評価委員会からは、事務執行に関して、概ね適切に行われているという評価を得て、事業継続等の手続を進めさせていただいている。

○梅原委員長

　あとで、齟齬がないように、情報交換のうえ、議論していただきたい。大学には認証評価等、評価が多くあり、どの評価のことなのかということだと思う。認証評価であれば、その結果を踏まえ、各大学において、中期計画に反映できるものはしていると思う。

※　山田委員からの質問については、後日、委員、大学及び事務局間で齟齬の

ないように情報交換のうえ、各委員に回答することにより対応した。

その他

　　　事務局から資料４について説明した。